

1月10日のウクライナ情報

安齋育郎

●ロシアの新規動員兵の訓練(2023年1月5日)

動員された兵士が訓練を受け特殊作戦区域に配備される。

ロシア国防省の射撃場での訓練で、兵士達は必要な技能をすべて身につけた。

<https://twitter.com/i/status/1610908071995518977>



●新型コロナウイルス変異株亜種「クラークン」(2023年1月5日)

イギリスで猛威ふるうオミクロン株変異株亜種「クラークン」(※注:海の怪物)。

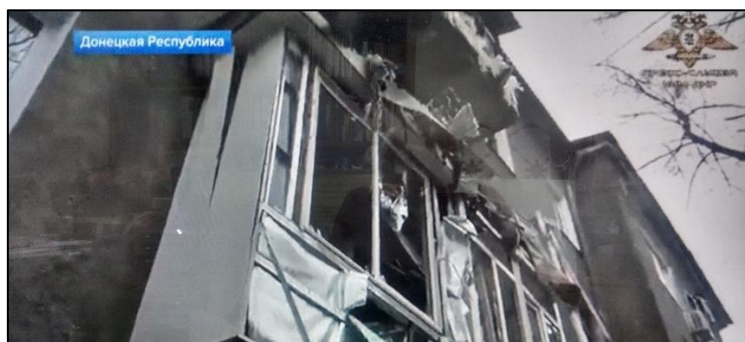
Kraken は twitter 上で誰かが勝手にネーミングしたようですが、欧米の多くのメディアもそれを使っているようだ。オミクロンの亜種なので、正式にはネーミングはない。



●ウクライナ軍の砲撃(2023年1月5日)

ウクライナ軍は1月4日夜、1時間半でドネツクとホルリフカを約20発砲撃した。民間インフラしかない住宅地で弾薬が爆発した。また、ザポロージャ地方では、攻撃による死傷者が増加。最新の報道によると、緊急事態省の職員数名を含む5名が死亡、15名が負傷し救助にあたった1名は極めて深刻な状態にある。

<https://twitter.com/i/status/1610914766784204802>



●ドンバスの悲劇を忘れるな(2023年1月8日)

投稿者コメント:プーチンが何度も述べているように、2014.7~2022.2の間に、ドンバスでは露系住民1万4千人がウクライナのアゾフや親ナチなどに殺害されている。逆に言えば、この1万4千人はミンスク合意があるとして無視され続けたことになる。ひどい話だ。

※ツイッターの意見1:「論より証拠」ですね。停戦なんて、端からしなかった／する気がなかった▶結果ですからUAが違反したことは間違いなしですね。

※ツイッターの意見2:”ドンバス 2016”ドキュメンタリー映画【日本語字幕付き】(”Donbass 2016” Documentary by Anne Laure Bonnel subtitles JAPANESE) 再再送
<https://youtu.be/ln8goeR5Rs4>

【作品概要】

まだ厳しい冬の開けない2022年2月24日、国際社会の予想と希望を裏切って、ロシア軍はプーチン大統領の決定により、隣国ウクライナの国境を超え、本格的で大規模な侵略戦争を始めました。

その背景には、2014年2月以降、ウクライナ政府が同国東部に位置するドンバス地域で、主にロシア語を母語とするウクライナ住民およびロシア系住民への激しい無差別攻撃を開始し、以後8年間の長きにわたり、いわば自国民である同住民に対する迫害と殺戮と虐殺を繰り返してきたウクライナから、彼らの命と生活と安全を保護する目的、そして、ロシアの存立自体を脅かすNATOの東方拡大を絶対に阻止する目的とがありました。

一方、米およびNATO西側諸国は、一貫して、ウクライナ政府による同地域住民への無差別爆撃や虐殺の証拠や事実はない。またNATOが東方拡大はしないという合意文書をロシアと交わしたことはないと主張し、ウクライナへのロシアの介入を強く牽制してきました。

はたしてどちらの言い分が本当なのか？

この東部地域で今、いったい何が起きているのか？

その真実を自分の目、耳、全身で確かめるため、フランスの女性ジャーナリスト、アンヌ=ロール・ボネルは2015年1月、ウクライナ東部ドンバス地域に赴きました。

彼女がそこで見たのは、自国政府の攻撃により破壊尽くされた居住アパートや学校や保育園、家族も住む家も失った人々、今も地下の防空壕で身を守りながら不自由な生活を強いられる人々…。そして自国政府が行った数々の殺戮と虐殺により、子供を亡くし、家族を亡くし、希望を無くした多くの住民たちの深い悲しみと強い怒り、不条理な戦争への絶望でした。

アンヌ=ロール・ボネルはこの映画で、そのおびただしい数の事実と証言をもとに、アメリカやNATO西ヨーロッパ諸国にとって「都合の悪い真実」と「残虐な不条理」を、静謐かつ抑制されたトーンで貫かれた印象的な映像で、見事にかつ衝撃的に暴いて行きます。

監督:アンヌ=ロール・ボネル/制作; Les films de Sacha/時間:53分50秒

© Les films de Sacha

日本語翻訳:マキシム



●アメリカ下院議長選び(2023年1月7日)

米下院議長選でマッカーシーに反対してきた、フリーダムコーサス会長のスコット・ペリー議員が13回目の投票で遂にマッカーシーに投票。会場は大拍手。その後、14回目の投票で過半数を超えて、共和党大団円。

<https://twitter.com/i/status/1611424083719102467>



●ミンスク合意の裏側 ~ マリーヌ・ルパンのスピーチとメルケルの述懐(2023年1月8日)

<https://youtu.be/HBDk6Kl2kOo>

※投稿者コメント:この動画は、このチャンネルで2022年12月13日と17日に配信したドイツのアンゲラ・メルケル前首相が、インタビューで西側とウクライナ、ミンスク合意の真相を話したことについての続編です。

メルケルの対談イベント(2022年6月)の一部とマリーヌ・ルパンのEU議会でのスピーチ(2015年10月)を含みます。ミンスク協定の合意がなされた2015年の欧州議会での様子をご覧ください。

ミンスク合意については、経緯と合意文書の内容を過去の動画でお伝えしていますので、ご興味がある方はこちらからご視聴ください。

ウクライナ紛争 ~ 導火線 - ミンスク合意 ~ Fuse - The Minsk Agreements(日本語字幕)

<https://youtu.be/viVgRrU-l6o>

日本のメディアでは、やはりほとんど報じられていないようですが、YouTubeでは、取り上げている方もいらっしゃいます。

すでにご存じの方も、多いと思いますが、ご視聴いただければ幸いです。



※安齋注:これは興味深い、重要な番組映像です。ミンスク合意問題の総括でもありますが、なぜフランスの極右と言われるマリーヌ・ルペンが票を集めるのか、分かる気もします。

●【ウクライナ】この後どうなる？（及川幸久、2023年1月9日）

<https://youtu.be/azZDeKUpwEg>



●ロシア軍;1日でウクライナの6グループの破壊工作員を殲滅(2023年1月4日)

特別作戦中、ロシア軍はハリコフ地域のクピャンスク方向で40人以上のウクライナ軍人を破壊した。Dvurechnaya、Sinkovka、Kislovka、Berestovoyeの入植地近くの敵ユニットに火のダメージが与えられました。ロシア国防省によると、敵の破壊工作および偵察グループも、入植地リマン・ファーストの地域で破壊された。

クラスノリマンスキーの方向では、ロシアの砲兵隊がルハンスク人民共和国のチェルヴォナヤ・ディブロヴァとセレブリャンスキーの林業地域にあるウクライナ軍の人員と装備の2つの突撃分遣隊と蓄積を攻撃した。

ドネツク人民共和国とルガンスク人民共和国の領土で、1日に合計5つの敵の妨害工作と偵察グループが破壊されました。この方向の敵は、150人の軍人が死亡および負傷しただけでなく、装甲兵員輸送車、7台の戦闘装甲車両、および3台のピックアップトラックを破壊した。

ロシア連邦軍はドネツク方向への攻撃を続けた。ここで、ウクライナ軍は100人以上の兵士、戦車1台、戦闘装甲車4台、車両5台を破壊した。

南ドネツク方向では、ウクライナ軍はDPRのドロジニャンカ近くのロシア陣地への反撃を試みたが失敗した。すべての反撃は撃退され、敵は元の位置に追いやられた。

ロシアの大砲は、共和国の領土とザポリージャ地域で活動した。ウクライナ軍の180人以上の戦闘機、5台の戦車、5台の歩兵戦闘車、3台の戦闘装甲車、10台の車両が1日で破壊された。

ロケット部隊と砲兵隊は、ウクライナ軍の83砲兵部隊を発砲位置で攻撃し、1日あたり107地区の人員と軍事装備を攻撃しました。

DPRのチャソボイ・ヤル(Chasovoy Yar)とアブディエフカ(Avdeevka)では、アメリカの2つのAN/TPQ-50対砲兵レーダーが機能しなくなった。

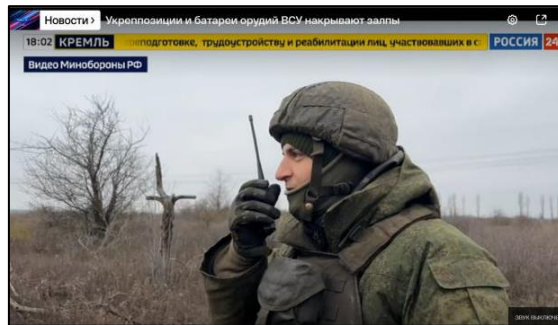
ザポリージャ地域のオレホフ(Orekhov)、およびDPRのディブロヴァカ(Dibrova)と・コンスタンティノフ(Konstantinovka)の集落の地域では、砲弾を備えた5つのウクライナの倉庫が破壊された。クラマトルスクの近くでは、外国人傭兵のロケット弾と砲兵兵器の貯蔵所が清算された。

アルテムフスク地域での対砲兵戦中に陣地が開かれ、ウクライナのウラガン MLRS の発射装置が破壊されました。

ハリコフ地域のポカリャノエ集落とザポリージャ地域のオレホフ市の近くで、3 基の 2S1 グヴォズディカ自走榴弾砲が射撃位置で破壊された。セレブリアンカ（DPR）では、D-20 榴弾砲が乗組員と共に破壊された。

ニコラエフ地域のノボパヴロフカ地域とクラマトルスク近くで、ロシア航空宇宙軍の戦闘機がウクライナ空軍の MiG-29 および Su-25 航空機を撃墜した。

ロシアの防空システムは、DPR、LPR、ザポリージャ地域の領土で 1 日あたり 6 台のウクライナのドローンを破壊した。



●イスラエルでのウクライナ難民の被害(2023 年 1 月 5 日)

イスラエルに身を寄せているウクライナ難民の多くは性的搾取を含む、様々な搾取の対象となっている。タイムズ・オブ・イスラエルが報じた。

報道によると、イスラエルにはウクライナ危機以降、4 万 7000 人近くの難民が避難し、現時点において 1 万 5000 人近くの難民が滞在しているものの、これらウクライナ人のうちひとりも難民認定されていないという。

イスラエルに到着した非ユダヤ系のウクライナ人はツーリストのステータスを付与され、就労が不可能となっている。

2022 年 5 月にイスラエル政府は非ユダヤ系ウクライナ人の就労を許可したものの、使用者側は依然としてユダヤ系ウクライナ人ばかりを雇用しているという。このため、多くの難民は非合法に雇用されるケースが多く、様々な搾取の被害にあっているとのこと。

首都テルアビブにあるウクライナ難民センターの報告によれば、2022 年 3 月から 8 月にかけて少なくとも 3 件の性的暴行事件が警察に報告されたほか、18 件の性的強要、12 件の恐喝も報告されている。

また、貧困により自殺するケースや、ユダヤ系のルーツを証明する証明書の売買も横行しているとのこと。



●アメリカのブロガー、アンドレイ・ラジェフスキー氏の見方(2023年1月5日)

アメリカのブロガー、アンドレイ・ラジェフスキー氏は、ロシア国内を標的に対する攻撃は、NATO がウクライナでの戦争を拡大させる為に動いている証拠であると考えている。

「この攻撃の背後には軍事的な目的がある。ロシアを刺激して何とか反応させる為だけではなく、ロシア参謀本部が準備している大規模統合作戦のタイミングを変更させる為である。なぜ？明らかに全戦線での攻撃の準備を徹底させない為である」。

「ロシア社会から参謀本部とクレムリンに圧力をかけ即時報復を要求させる。同時にロシア市民に恐怖、不安、疑念を植え付ける事で内部から揺さぶる」。

ポストソビエトの研究を専門とする氏は、西側の戦略家はロシアと西側の社会の文化の違いを考慮に入れていない為、全く効果がないと確信している。

「殆どのロシア人は欧米人よりも戦争について理解している。軍人だけでなく市民にも当てはまる。スロビキンが信頼されている等、色々な理由がある」

氏は当分の間、この試みは実を結ばないと確信している。「クレムリンと参謀本部がヒステリックになり攻撃に踏み切ることはない。ロシア軍は NATO が望む時ではなくプーチン大統領が決めた時に攻勢に出るだろう。

この場合でも「戦争当事者」は利益を得ている。

「ロシア領土への攻撃は、議会のバカどもに米国海兵隊にさらに金をつぎ込む口実を与えるという有益な副作用もある」と氏は書いている。



●ウクライナ軍の捕虜(2023年1月5日)

ウクライナ軍は威嚇戦術を積極的に使っている。これに対応する発言をしたのは、戦場記者フィリップ・プロクデーニンである。

「私の知る限り、そこでは躊躇なく弾圧が行われている。あるいは脅されている。これは罾かもしれない」と Ura.ru は彼の発言を引用している。

プロクデーニンは、ウクライナ軍は捕虜になったときに何を言うべきか教えられていると強調した。その結果、すべての囚人は、どんな罪も「邪悪な民族主義者」のせいにするように熱心になる。

ヴォエンコールは、ウクライナ司令部は、部下がロシア軍の影響下に入る可能性があるため、捕虜になることを避けていると考えている。

先に、ウクライナ軍は極めて困難な状況で任務に当たっていることが報告された。したがって、最初の機会に、彼らは降伏を急いでいると、ポーランド紙 NDP のコラムニスト、ヤチェク・トチマン氏は言う。

彼によると、空腹で混乱したウクライナ人は、欠陥のある機関銃を肩に担いでいるので、そのような機会があればすぐに喜んでロシア軍に降伏するのだそうだ。

トクマン氏は、ウクライナ当局が脱走兵に対してより厳しい法律を採用したいと考えているのは、まさに軍隊のひどい状態のためだと強調した。



●バイデン訪問前のエルパソの様子(2023年1月9日)

ジョー・バイデンに訪問に際し、ホームレスのキャンプを撤去する前のテキサス州エルパソの様子です。第三世界の国、いやいやここはアメリカです。これから初めて国境を訪れるバイデン。バイデンが到着する前に、役所は町を消毒し、不法移民の野営地を撤去していた。エルパソのローカルニュースでは、バイデン氏の車での訪問を前に、警察が通りを搜索し、「人々を逮捕」していると報じています。

<https://twitter.com/i/status/1612141118275178501>



●フランスの欧州議会マリアーニ議員(2023年1月9日)

ロシアのガス供給に関する交渉は数カ月以内に始まると思う」。

「今のところ、欧州各政府はワシントンの不興を買うことやゼレンスキーに脅迫されるのを恐れすぎている」。

同議員によると今のところ欧州はかなり暖冬で住民はまだ停電に悩まされていないそうだ。



●映画「キエフからドンバスへ」が捜査対象に(2023年1月5日)

ウクライナ保安庁は、ウクライナの著名なジャーナリストであるダイアナ・パンチェンコが自身のYouTubeチャンネルに投稿した映画「From Kiev to Donbass」(キエフからドンバスへ)に関して、刑事事件として捜査を開始した。

取材された人は、「ウクライナは嫌だ、この地をもうウクライナに渡さないで」と答えている。

<https://twitter.com/i/status/1610832937603436546>



●ウクライナのドネツクへの攻撃(2023年1月5日)

JCCC(ウクライナの戦争犯罪に関する問題を扱う共同管理調整センター)の DNR 代表は、ウクライナの武装勢力が、ドネツク人民共和国の居住区に、24 時間で様々な口径の 330 発以上の砲弾を撃ち込んだと発表した。



●極超音速ミサイル「ジルコン」装備のフリゲート艦(2023年1月4日)

プーチン大統領はビデオ回線を通じて、極超音速ミサイル・ジルコンを装備したフリゲート「アドミラル・ゴルシコフ」の就役式に参加。

ショイグ国防相はプーチン大統領に、同艦が大西洋、インド洋、地中海への長距離航海中に、様々な条件下で極「ジルコン」を使用する演習を行うと報告した。

<https://twitter.com/i/status/1610614156662837251>

